

審査の結果の要旨

氏名 宮下 和也

本論文では、T 細胞性急性白血病(T-ALL)に対する治療薬開発に2通りの方法で挑んだ結果について述べられている。1つ目は、T-ALLの発症に深く関連していることの知られているLMO2を標的とするLhx2を利用する方法で、2つ目は、天然化合物ライブラリーを用いた大規模スクリーニングにより有望な化合物の同定・単離を行う方法である。いずれのアプローチからも、T-ALLを選択的に標的とする候補遺伝子・化合物の有効性に関する基礎データの取得に成功している。本研究により得られた基礎データは、現在有効な治療法に乏しいT-ALLに対する新たな治療法を開発する際の基盤となる成果と考えられる。

本論文には共著者が複数存在するが、大部分の実験を論文提出者が主体となって行っており、論文提出者の寄与が十分であると判断する。

したがって、博士（医科学）の学位を授与できると認める。

以上 381 字